

あさの ちゃんねる

医療法人社団 浅ノ川

浅ノ川総合病院 広報誌 2016年春号(年4回発行)

元気のある病院
元気のでる病院



おんな川の色気

病院長 大西 寛明

浅野川は、昔から「おんな川」と申します。この川の色気を感じるには、夕暮れ時に豊国町の天神橋の上に立ち、先ずは夕陽に染まる緩やかな流れを眺めます。おもむろに河川敷に沿って下っていけば梅ノ橋が見え、左手に泉鏡花の瀧の白糸碑、右手にはひがし茶屋街を望みます。時折、芸妓衆の笛や太鼓の音を遠くに聞くことでしょう。卯月は桜の季節にて候。日没とともに川に沿う染井吉野の花の連なりが水銀灯の光りで白く浮き上がります。浅野川大橋のアーチをくぐり、中の橋に至る頃にはとっぴりと日も暮れて、左手に主計町の茶屋街が現れます。軒先を白熱灯の柔らかな灯りで満たされた町家が立ち並び蒼古な街並みには歩く人もまばらで、大正浪漫の時代が彷彿とされます。

昨年三月の北陸新幹線開業以来、金沢は県外からの観光客で賑わい、その勢いは衰えないようです。兼六園、石川門の周辺はもちろん、金沢市民の台所と言われる近江町市場にも外国人が目立ちます。しかし本来の金沢を求めるとなれば、日中の喧騒が治まる夕暮れ時を待って、気の合う方とお二人でおんな川を下ることをお勧めいたします。煌々とした照明の下を人、人が行き交う夜の祇園では遠い昔に失われてしまった心地よい静寂と裏通りに残された暗がりだけが、おんな川の色気としてこの界限に息づいています。

子供の頃を回想するに、男らしさ、上級生らしさ、長男らしさという「・・・らしさ」を教師や親から常に求められていたように思います。医療技術の高度化と超高齢化社会の到来を背景に、一つの医療機関で全ての治療を完結できる時代が終わっている以上、かかりつけ医と病院、病院と病院との連携なくして、医療の安心、安全を守ることはできません。時代の要請に応じた「病院らしさ」が求められます。

今、何が求められているのか・今、何ができるのか・今後はどうあるべきなのか。自問自答を繰り返しつつ、「浅ノ川総合病院らしさ」を考えています。金沢は京都ではなく、東京でもありません。金沢は金沢らしくと同様に、当院は当院らしく本来のスタイルを見失うことなく、「あさの川の色気」を育ててまいります。



病院の理念

「皆様の信頼を得る、思いやりのある医療を提供します。」

病院の方針

1. 新しい知識と技術を身に付け、質の高い医療を提供します。
2. 患者の皆様にやさしい、活気にあふれる病院を目指します。
3. インフォームドコンセント(説明と同意)に基づいた治療を行います。
4. 地域の医療機関との連携を深め、地域医療の充実に貢献します。
5. 安全性を考え、責任の持てる医療を提供します。

平成28年4月、最新型の トモシンセシス機能つきマンモグラフィー (3Dマンモグラフィー)を導入いたしました。



乳がんの現状

乳がんは世界的に増加傾向をたどっています。乳がんのリスク因子には様々なものがありますが、その一つにエストロゲンという女性ホルモンの影響があげられています。エストロゲンは卵巣から月経に関与して分泌され、閉経後も脂肪細胞から分泌されることがわかっています。乳がんの60～70%はこのエストロゲンによる刺激で成長すると言われています。

近年我が国でも初潮年齢の低年齢化や、女性の社会進出による出産数の低下、また食生活の欧米化(高脂肪・高タンパク)による肥満などを背景に、今では女性の12人に1人が乳がん罹患すると言われています。

マンモグラフィーとトモシンセシス

マンモグラフィーは圧迫板と呼ばれる板で乳房をはさみ、乳房を薄く伸展して行うレントゲン検査であり、乳がんの早期発見に有用な検査として広く全世界に普及しています。乳腺を薄くすることで、白く写る乳腺組織の中からやはり白く写る乳がん病変を見つけやすくしています。しかし、日本人をはじめとするアジア人には乳腺密度の高い「デンスブレスト」と呼ばれるタイプの方が多いと言われており、乳房を圧迫して薄くのぼしてもなお、乳腺組織と病変が重なり、病変が判別しづらいことがあります。また正常の乳腺組織どうしが重なり合い、あたかも病変のように見えてしまうこともあります。そのため病変が見逃されたり、病変がないにも関わらず時間や費用のかさむ精密検査を受けざるを得なくなるといった状況がより高確率に起こってしまいます。

乳腺は通常加齢とともに退縮し、脂肪へと置き換わっていくのですが、日本人における乳がん罹患年齢のピークは40歳代と若く、加えて日本人女性には50歳を過ぎても乳腺濃度が高い方が多いと言われており、デンスブレストはマンモグラフィー検査において大きな課題となっていました。

そこで登場したのが今回当院でも導入されたトモシンセシス機能つきマンモグラフィーです。

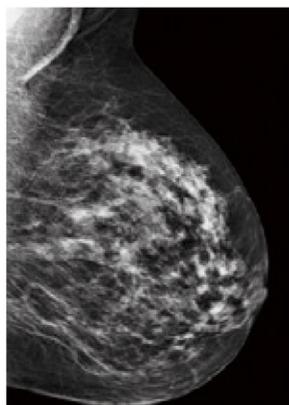
トモシンセシス検査では一回の検査の中で少しずつ機械の角度を変えながら複数回の撮影を行います。これによりいろいろな方向からの画像情報を得ることができ、正常な乳腺と病変をより分離して見ることが可能になります。また乳腺組織の重なりも低減されます。

検査時には一回の圧迫で、これまで通りの従来の撮影とトモシンセシスの両方を撮影しますので圧迫の回数が増えることはありません。撮影時間は従来のマンモグラフィーと比べ、やや長くなりますが、1回の圧迫につき10数秒程度です。被爆量に関しても、日本乳がん検診精度管理中央機構の定める基準内となっています。

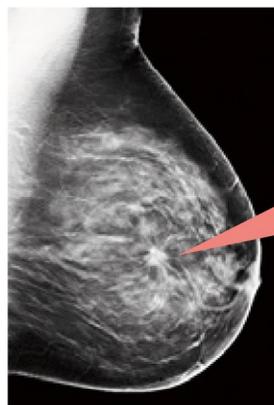
「過去にマンモグラフィーを受け、乳腺濃度が高いためマンモグラフィーには不向きといわれた。。。」

「圧迫時間(検査時間)が少し長くて1度の検査でより精密な検査をしてほしい。。。」

トモシンセシス検査は、このような方々の乳がん早期発見に貢献できると考えています。



通常マンモグラフィー画像



トモシンセシス画像

通常のマンモグラフィーでは指摘できない乳がんが、トモシンセシスでは明瞭に写しだされていることがわかります。

*すこやか検診を始め、自治体が運営している検診については引き続き通常撮影のみの検査となります。

*現在当院では乳がん検診は婦人科検診のオプションとして行っております。

連携登録医のご紹介

今回は、金沢市木越町の『近藤クリニック』をご紹介します。

本院は、平成元年5月に木越町で内科、小児科、歯科、小児歯科(家内が歯科医師)を標榜して開業しております。当時は自然豊かな場所で、霊峰白山、立山連峰が見える風光明媚なところでした。現在、皮フ科西尾クリニック、ママBBクリニック、プラス薬局、すがわら整形外科クリニック、佐藤眼科クリニックの先生方が半径500mのところを開業され、すこし風景も変わってきました。赤ちゃんから高齢者の方々に来ていただき、多科で連携を取りながら、様々な疾患に対応しております。

開業当初から診ていた患者さんもお年を取って今は在宅医療や、各種の介護・福祉施設にお世話になっております。浅ノ川総合病院には、入院をもとより、様々な検査をしていただき大変心強い限りです。

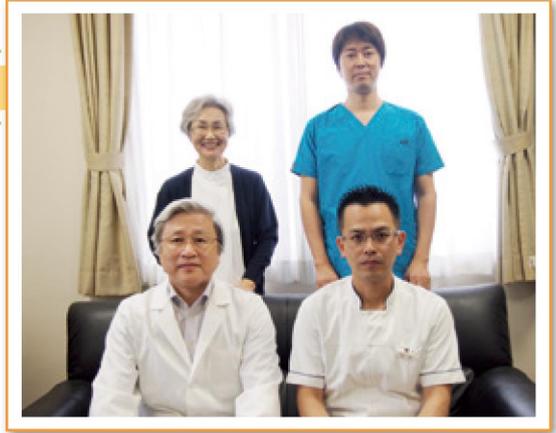
今後も患者さんが安心できるように、広く連携を取りながら、これからの地域医療をしっかりと守りたいと願っております。よろしくお願いたします。



クリニック外観

連携登録医

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して新たに開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。



〔院長 近藤 邦夫 先生〕

近藤クリニック

院長：近藤 邦夫

診療科：内科・小児科：近藤 邦夫(前列左)
御館 靖雄(前列右)

歯科・小児歯科：近藤 政子(後列左)
近藤 大輔(後列右)

診療時間

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:00~12:30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | / |
| 14:30~18:00 | ○ | ○ | ○ | / | ○ | / | / |

休診日：木曜・土曜午後、日曜、祝日

※内科受付は7:30から受付ノートに記載することができます。

※木曜・土曜午前受付終了 12:00

※午後受付終了 17:00

住 所：〒920-0203
石川県金沢市木越町ト9-1

電 話：076-237-2211

F A X：076-237-0508

駐車場：あり



病棟紹介 東館5階病棟

東館5階病棟は平成20年8月より回復期リハビリ病棟を開設し、365日リハビリ訓練と日常生活訓練を行い、8年目を迎えました。病床数は50床で、主な疾患は脳卒中をはじめ脳神経疾患治療後および脊髄、骨盤、両下肢の骨折や筋肉、支持組織の損傷による手術後など急性期治療を経て、回復期におけるリハビリ訓練を集中的に実施し、自宅退院までを支援する病棟です。病棟職員は看護師23名(師長含む)、介護福祉士13名、看護補助2名の計38名で病棟を運用しています。



チームで取り組む退院支援

脳神経疾患による機能障害や骨折の痛みを抱え、自宅退院や今後の療養生活に不安を持っている患者さんに医師、看護師、介護福祉士、リハビリ療法士、薬剤師、MSW(医療ソーシャルワーカー)、栄養士と共に自宅の生活を想定したリハビリおよび日常生活訓練を行います。患者さんだけでなく、家族も含め内服薬の管理および食事・生活習慣の管理を指導し「その人らしい生活」を維持できるようにそれぞれの職種で関わり、限られた期間の中で在宅復帰できることを目標にチームで取り組んでいます。また、退院後のケアの継続ができるように院外のコメディカル(ケアマネージャー、看護・介護職員、リハビリ療法士、福祉業者など)との連携も重要であり、MSW(医療ソーシャルワーカー)を通じて情報共有などを行っております。

「その人らしい生活」を自宅もしくは生活施設で送ることが出来るように常に患者さんに寄り添い、個々の立場に立って訓練やケアを実施し、患者さんが安心して自宅退院できるように日々努力しています。



新メンバー紹介

平成28年4月より病棟に新卒の看護師2名が加わりました。入院時から退院後の状況を踏まえてケアが出来る病棟で、少しでも良いケアが出来るように努力したいと話しておりました。新人と共に今年度も新たな気持ちでケア向上に努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



さたけ あかり
佐竹 明梨
(新人看護師)



みやむら あゆむ
宮村 鮎舞
(新人看護師)

平成28年度 入職式・新入職員研修

平成28年4月1日、当院の入職式が行われました。

総勢46名の新しい職員を迎え、これからの浅ノ川総合病院を担う力として小市理事長から告示を受けた新入職員からは、頼もしい宣誓が行われました。

その後、大西病院長、谷事務長のプレゼンテーションで浅ノ川総合病院の特徴を教わり、就業規則や倫理、電子カルテシステムについて、翌週からは各部門の紹介や医療安全、感染対策、防災について学びました。3日目の最終日にはグループワークを行い交流を深め、それぞれの配属先へ就くことになりました。

入職式



新入職員研修



新任医師紹介

今年4月から赴任された医師を紹介します！

よろしく
お願いします！



腎臓内科

おかだ けいいちろう
岡田 圭一郎

すべての患者さんにより良い医療を受けていただけるよう、日々精進してまいります。お困りの際には、遠慮なくご相談ください。

専門分野／腎臓病一般
所属学会／日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会



内科

おおもり あい
大森 亜衣

趣味は体を動かすことです。最善を尽くします。何でもお声をかけてください。

専門分野／内分泌代謝
所属学会／日本内科学会、日本内分泌学会、
日本糖尿病学会、日本高血圧学会



産婦人科

せと としお
瀬戸 俊夫

お母さんと児がともに安全に出産し、満足することのできる産科医療を目指しています。婦人科良性疾患では低侵襲な治療を、悪性疾患では総合病院のメリットを生かした集学的治療を提供したいと考えております。

専門分野／産婦人科一般、低侵襲手術、周産期
所属学会／日本婦人科学会、日本産婦人科内視鏡学会、
日本母体胎児医学会、日本産婦人科医会
認定資格／母体保護法指定医、日本産婦人科学会専門医

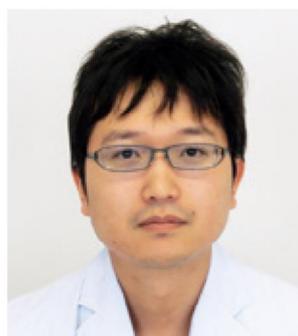


泌尿器科

いしい たけお
石井 健夫

本年度から、当科常勤医は一人体制となりました。患者さんには、待ち時間などで多大な迷惑をかけると思いますが、正確な診断と迅速な治療をこころがけていきます。

専門分野／排尿障害
所属学会／日本泌尿器科学会
認定資格／日本泌尿器科学会専門医、指導医



内科

なかむら あきのぶ
中村 彰伸

4月から7月までの4ヶ月間と非常に短い期間ですが、精いっぱい頑張ります。どうかよろしくお願いたします。

専門分野／消化器
所属学会／内科学会、消化器病学会、内視鏡学会、
超音波学会、肝臓病学会

委員会紹介：褥瘡対策委員会

当院の褥瘡対策委員会は全入院患者さんを対象に、褥瘡発生の危険評価、褥瘡治療ケアなど褥瘡対策を円滑に推進することを目標に活動しています。

褥瘡発生は様々な要因が関与しています。そのため委員は多職種から構成されています。専任医師の池田医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護部及び各病棟の専任看護師1名、慢性期各病棟より介護福祉士1名、栄養部・リハビリテーションセンター・薬剤部・医事課のスタッフが参加しています。

活動内容は、褥瘡発生リスク評価から褥瘡診療計画書を立案し、適切な看護の提供を行う環境を整えることです。そのため、マニュアルの作成・改訂や研修会などを行っています。褥瘡有病の患者さんに対して、1カ月に2回定期的に回診を行い、ケア方法・体位調整・褥瘡ケア用品の使用提案・薬剤使用量の指導を行っています。これらの活動の集大成として、褥瘡委員は様々な活動を毎年褥瘡学会で発表しています。今後も褥瘡発生ゼロを目指して、褥瘡予防ケアを病院全体で取り組めるように活動していきます。



行事レポート

第4回 浅ノ川総合病院における薬薬連携勉強会

平成28年3月15日(火)19時より、当院本館3階講義室で第4回浅ノ川総合病院における薬薬連携勉強会が開催されました。この勉強会は当院病院薬剤部と近隣の保険薬局が連携を強化することで、安心・安全な薬物療法の発展に寄与することを目的とした勉強会です。

はじめに、当院内科医長 早稲田医師より、“最新の内視鏡診断と治療”と題した講演が行われました。続いて参加者を6グループに分けたスモールグループディスカッション(SGD)が行われ、大西病院長をはじめ、医師・薬剤師(近隣の開局薬剤師含む)・看護師・ケアマネージャーなど様々な職種41名が参加し、「内視鏡治療、在宅緩和ケア」をテーマに活発な意見交換が行われ、盛況な会となりました。



早稲田 医師



SGDの様子



大西 病院長



笹山 薬剤部長

トピックス いしかわのこどもみらいキャンペーン

「薬剤師のお仕事体験 in 浅ノ川総合病院&北陸大学」



TVと新聞にも紹介されました!



2016年4月10日(日)、いしかわのこどもみらいキャンペーン「薬剤師のお仕事体験 in 浅ノ川総合病院&北陸大学」が当院で開催されました。

石川県内在住の小学校高学年の親子20組40名が参加し、調剤体験や注射薬セット体験をしました。石川県の未来を担う子供たちは皆真剣な表情で当院薬剤師の説明を聞き入っていました。なかには、今回の体験をとおして、“将来は薬剤師になりたい”という声も聞かれました。

当日夜のMROニュースに、あさのちゃんとともにこの様子が放映され、新聞でも紹介されました。

今後も地域医療の発展を願い、このような活動を続けていきたいと思ひます。



編集後記

北陸新幹線が開通して1年が過ぎた今年の3月、今度は北海道新幹線が開通しました。

あっという間に、「かがやき」は先輩的存在になってしまいました。新しい仲間を迎える新年度は、自分が先輩になる時期でもあります。期待と不安でいっぱいだった頃を思い出しながら、いつも

笑顔で挨拶しなければと感じている私、あさのちゃんはずさく新入職員と対面しました♪
そうそう、このコーナーでもお伝えしていたように、看護師さんの雑誌にも紹介されましたよ。
知名度を上げることは、今年度も私、あさのちゃんの大きな目標です!新幹線が当たり前のように北陸を駆け抜けていますが、あさのちゃんとしては、まだまだ新鮮さを保てるように心がけてがんばります!出演依頼も待ってますよ〜。お気軽に連絡くださいね。



問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。
TEL 076-252-2101(代) メールアドレス: kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp